

週日の説教

金 大烈 神父 2009年7月28日(火)

《何気なく投げた石に、かえるが殺される》

韓国に「何気なく(さりげなく・何も思わずに)投げた石に、かえるが殺される」ということわざがあります。

日本語に「陰口」という言葉がありますね。その人のいないところで悪口を言い、自分の味方を作るような言い方をすることを陰口と言います。そのような陰口によって、心を痛めた経験のある人がいると思います。反対に、陰口を言った経験のある人もいるでしょう。陰口がよくないことは、みんな分かっています。仕方なく、陰口を言ってしまう場合もあります。「あの人は、少しおかしいと思うでしょう。ねえ。」と同意を求めるような言い方をされると、「そうですね。」と言わなければいけないような雰囲気になってしまう場合もあります。

舌の長さは、いくら長くても10cmにはならないでしょう。この10cmにもならない舌によって、人を生かすことも、簡単に殺すこともできます。実際に、人間の歴史は、舌によって動かされてきたのではないかと思います。カトリック信者である私たちは、いつも舌を治める能力を持つことが必要です。政治を行う人達だけが「治める」という言葉を使うのではなく、私達も自分で自分の言葉を治める能力がなければならないと思います。

今日の福音(マタイ 13:36-43)は、終末の話です。毒麦と良い種の話です。イエス様は、「世の終わりに天使達が来て炉の中に投げ込まれる悪い麦と言うのは、つまずきとなる全てのものと不法を行う者どもである。'とはっきり仰いました。では、「つまずきとなるもの」とは何でしょうか。舌によって人を躓かせ、困らせることを意味します。

この世の中で、他人を話題にすることが一番面白いことかも知れません。私も誰かと人の噂話をするときは、自然に集中してしまうくらい面白いです。人の話をするときに、褒める話や相手の人を生かす話をするのなら、お互いに気持ちよくなります。しかし、陰口を言ってしまうと、カトリック信者であれば、自分の心を痛めてしまうこととなります。そのような経験を何回もなされたことがあると思います。それが、つまずきとなること、人を殺すことです。上手く行くのを妨げることで

もちろん、自分ではできなかったことを他の人が上手に行っているように見えたら、気持ちが悪くなるのが自然な反応かも知れません。それは人間の本能的なものだと思います。しかし、足をかけてつまずかせないでください。どれほど憎らしい人でも、その人が正しいことを行って成功すれば、拍手をしてください。それが私たちの正しい姿ではないでしょうか。イエス様がはっきりおっしゃいましたね。「つまずくものと不法を行うものは、悪魔の子である」と。私たちは神様の子ですね。神様の子であるのに、悪魔の子が行うことと同じことをそのまま行うのは、いけないことです。当たり前のことです。

皆様、何気なく、さりげなく、何も思わずに「投げる石、口にしてしまう言葉」によって、罪もない人が死んでしまうかもしれません。私たちは、できるだけ、人を生かせる、人を立たせる役をするべきだと思います。

ご自分は、おしゃべりのほうだと思いますか。それとも、ほとんど話さないほうだと思いますか。ある人は、全然話さなくて周りの人を息苦しくさせます。何を考えているのか、腹を立てているのか、気分がよいのかさえ表さない人もいます。また、別の人には、言わなくても分かっていることを、何回も何回も説明して周りの人々を疲れさせます。福音的なのは、どちらでしょうか。福音的なのは、話すときには話し、黙るときには黙ることです。これは知恵によるものです。この知恵が分からなければ

ば、私たちは、うるさい存在になるか、息苦しい存在になるか、です。言うべき時にはきちんと話すこと、そして、黙ってほしい時には黙ること。実際に、話すことが多ければ、やはり間違いが一緒に増えていきます。そういう意味でも自分のことをよく考えながら振舞わなくてはならないと思います。私は、仕方なく、ミサで毎日このように口にしてはいますが、本当に疲れます。これも一つの十字架だと思います。時には、本当に話したくない気持ちになることもあります。しかし、皆様の顔を見て '話さなければならない' と思うことも結構あります。

とにかく皆様、自分の舌によって、自分が良いものになるか悪いものになるかさえ、決まることを意識しましょう。

ありがとうございました。